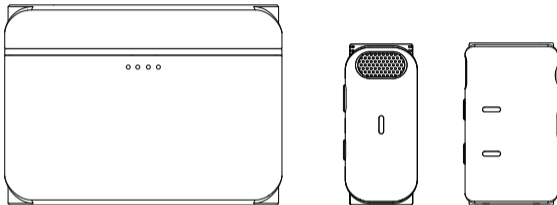




LARK M1

ユーザーマニュアル



LARK M1

2人用ワイヤレスマイクシステム



① 充電ケース x1



② 送信機 x2



③ 受信機 x1



④ ファーリー・ウィンドシールド
x2



⑤ 3.5mm TRS 変換ケーブル(カ
メラ用) x1



⑥ 3.5mm TRS-TRRS 変換ケー
ブル(TRRS 可変式) x1



⑦ USB Type-A -> Type-C ケー
ブル x1

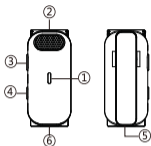


⑧ 取り扱い説明書 x1



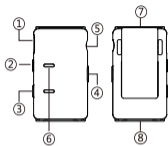
⑨ 保証証書 x1

ご注意：バージョンによっては同梱物の数が異なる場合があります。



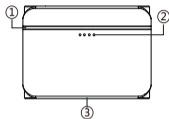
TX: 送信機

- ① 状態インジケータ
- ② 内蔵マイク
- ③ 電源ボタン
- ④ ペアリング / ノイズキャンセリングボタン
- ⑤ 立てかけクリップ
- ⑥ 充電接点と Type-C ポート



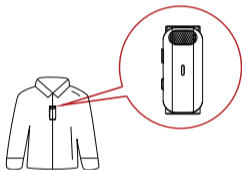
RX: 受信機

- ① Type-C ポート
- ② ペアリング / 音量 + ボタン
- ③ モード切替 / 音量 - ボタン
- ④ 電源ボタン
- ⑤ 3.5mm スマホ / カメラポート
- ⑥ 電源インジケータ
- ⑦ 立てかけクリップ
- ⑧ 充電接点



2人用ワイヤレスマイクシステム用充電ケース

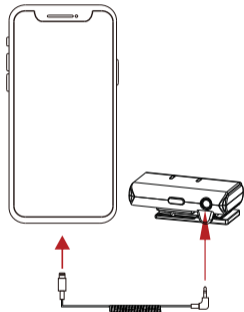
- ① ケース内インジケータ
- ② ケース外インジケータ
- ③ USB Type-C ポート



送信機と受信機は充電ケースから出してすぐに自動ペアリングが可能です。

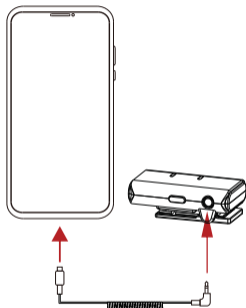
送信機をシャツの襟にクリップで留めることができます。

iPhone への接続方法



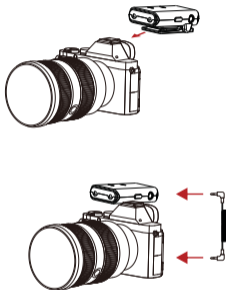
受信機と iPhone を 3.5mm TRS ~ Lightning ケーブルで接続します。

Android スマホへの接続方法



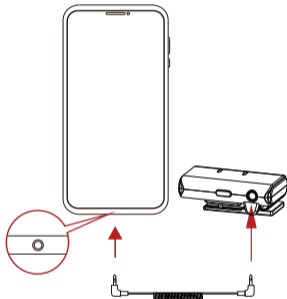
3.5mm TRS ~ USB Type-C ケーブルで受信機とスマホを接続します。

カメラへの接続方法



受信機をカメラへ取り付けます。
3.5mm TRS 変換ケーブルを使用して受信機と
カメラを接続します。

TRRS 対応機器への接続方法



3.5mm TRS ~ TRRS 変換ケーブルを使用して受信
機と TRRS 対応機器を接続します。

カメラの設定方法

カメラを最適にお使いいただくために、以下の推奨設定に従ってください。



SONY カメラ
カメラ録画音量を 1 に設定



Canon カメラ
録音レベルを 1 ブロックに設定

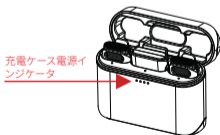


Fujifilm カメラ
外部マイクの音量を
-26dB に設定

インジケータランプ概要

インジケータランプ概要 - 受信機と送信機

インジケータランプの状態	機器の状態
インジケータランプが青で点灯	機器接続済み
インジケータランプが青で点滅	デバイスが切断されています。
送信機のインジケータランプが赤で点灯	送信機のバッテリー残量が低い
受信機のインジケータランプが2個赤で点滅	受信機のバッテリー残量が低い
インジケータランプがオレンジ色で点滅	充電中(電源オフ時)
インジケータランプがオレンジ色で点灯	満充電状態(電源オフ時)
送信機のインジケータランプが緑で点灯	ノイズキャンセリング機能オン
受信機のインジケータランプが緑で点灯	カメラモノモード
受信機のインジケータランプが青で点灯	スマホモード / カメラステレオモード



インジケータランプ概要

インジケータランプ概要 - 充電ケース

インジケータランプの状態	機器の状態
USB 接続時、ケース外側のインジケータランプ 1 個が点滅	充電ケース充電中 (充電の進行状況を示すインジケータランプの点灯数を参照)
ケース外側のインジケータランプ 4 個が点灯	充電ケース満充電状態
ケース内側のインジケータランプがゆっくり点滅	送信機 / 受信機が充電中
ケース内側のインジケータランプ 1 個が点灯	送信機 / 受信機が満充電状態

ケース外のインジケータランプ概要

点灯しているインジケータランプの数	充電ケースのバッテリー残量
点滅しているインジケータランプが 1 個の場合	バッテリー残量が低い、出力充電停止
点灯しているインジケータランプが 1 個の場合	25%
点灯しているインジケータランプが 2 個の場合	50%
点灯しているインジケータランプが 3 個の場合	75%
点灯しているインジケータランプが 4 個の場合	100%

操作概要

自動電源オン / オフ切り替え

送信機 / 受信機を充電ケースから取り出すと、自動的に電源がオンになります。

送信機 / 受信機を充電ケースに戻すと、自動的に電源がオフになります。

手動電源オン / オフ切り替え

送信機 / 受信機の電源ボタンを 3 秒以上長押しして、手動で電源のオン / オフを切り替えてください。

(図 1)

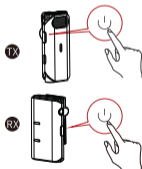
自動ペアリング

送信機 / 受信機を充電ケースから取り出すと、自動的にペアリングが行われます。

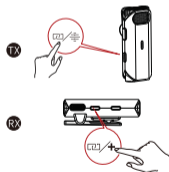
送信機 / 受信機を充電ケースに元に戻すと、自動的に接続が解除されます。

手動ペアリング

送信機の黄色ボタンと受信機の音量 + ボタンを同時に 3 秒長押しすると、インジケータが青で点灯して、ペアリングが完了します。(図 2)



(図 1)



(図 2)

操作概要

自動充電

送信機 / 受信機を充電ケースに戻すと自動的に充電が始まります。

手動充電

送信機、受信機、充電ケースを type-c ポートで充電器に接続するとそれぞれに充電できます。

送信機のノイズキャンセリング機能のオン / オフ切り替え

送信機のノイズキャンセリングボタンを押すとノイズキャンセリング機能のオン / オフが切り替わります。(図 3)

音量レベル調整

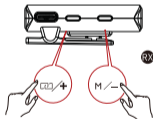
受信機の音量レベルは、「小」、「中」、「大」の 3 段階です。

本機の音量レベルは、初期設定で「中」に設定されています。

受信機のペアリング / 音量 + ボタンを押すと音量が大きくなり、モード切替 / 音量 - ボタンを押すと音量が小さくなります。(図 4)



(図 3)



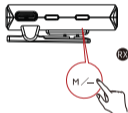
(図 4)

モードの切り替え

モード切替 / 音量 - ボタンを 5 秒間長押しするとモードの切り替えができます。

カメラのモノラルモードの場合、ランプが緑で点灯します

スマホモードまたはカメラステレオモードでは、ランプが青色に点灯します (接続デバイスによって異なります)。(図 5)



(図 5)

パラメーター

無線伝送	2.4GHz 適応周波数ホッピング (AFH)
送信範囲	40m (自由空間)、200m (LOS)
内蔵マイク	指向性パターン: 無指向性 周波数範囲: 20Hz ~ 20kHz
最大音圧	110dB SPL
入力ダイナミックレンジ	86 dB
バッテリー容量	送信機: 140mAh (0.518Wh) 受信機: 200mAh (0.76Wh) 充電ケース: 1400mAh (5.18Wh)
動作時間	送信機: 8 時間 受信機: 8 時間 充電ケース: 送信機 2 台、受信機 1 台で 2 回まで充電が可能。
充電時間	送信機: 1.5 時間 受信機: 1.5 時間 充電ケース: 1.5 時間
寸法	送信機: 48 x 21.5 x 10 mm 受信機: 48.3 x 27.6 x 11mm 充電ケース: 83 x 60 x 30 mm
重量	送信機: 11.8g 受信機: 17.5g 充電ケース: 80g

ご注意: 国や地域によって規制が異なるため、デバイスの周波数範囲と無線送信電力は異なります。

安全上の注意事項

バッテリーの過熱や破裂を防ぐため、製品を加熱装置 (電子レンジ、IH 調理器、オーブントースター、電気ヒーター、電気圧力鍋、給湯器、ガスコンロを含むがこれらに限定されない) の近くまたは内部に置かないでください。

純正品以外の充電ケース、ケーブル、電池は絶対に使用しないでください。

純正品以外のスペアパーツを使用すると感電火災破裂などの事故を引き起こす可能性があります。

FCC 要件

規制順守責任者より明示的に承認されていない変更または改造を行うと、本装置を操作するユーザーの権利が無効になることがあります。

本装置は、FCC (米国連邦通信委員会) 規則第 15 条の内容に準拠しています。次の 2 条件に従って動作するものとします。

- (1) 本装置が有害な干渉を引き起こさないこと。
- (2) 本装置は望ましくない操作を引き起こす可能性のある干渉を含む、あらゆる干渉受信を受容しなければならないこと。

注意：

本装置は FCC 規則第 15 条に定められたクラス B デジタル機器の制限について試験され、適合することが確認されています。これらの制限は住宅への設置における有害な干渉に対して妥当なレベルの防護を提供するためのものです。本装置は電波を発生または使用し、無線周波数エネルギーを放射する可能性があり、取扱説明書にしたがって設置および使用しなかった場合、無線通信に有害な干渉を引き起こすことがあります。また、特定の設置状況において干渉が発生しないことを保証するものではありません。本機器がラジオやテレビの受信状態に有害な干渉を引き起こす場合 (機器の電源をオンオフすることで確認できる)、以下の手段の一つ以上を適用してそれに対応するよう推奨されます：

- 受信アンテナの方向や位置を変える。
- 機器と受信機の離隔距離を大きくする。
- 機器を受信機が接続されているものとは違う系統のコンセントに接続する。
- 支援が必要な場合、販売店または経験を積んだラジオ / テレビ技術者に相談してください。